

授業で使える当館所蔵地図

No. 71 地図1『DE PARIS』、地図2『PLAN de PARIS』、地図3『FORTIFICATIONS DE PARIS』
地図4『Plan Monumental PARIS & ENVIRONS』

作成年 地図1：1705年、地図2：1820年、地図3：1885年（発行）、地図4：不明

サイズ 地図1：49×58cm、地図2：64×102cm、地図3：71×103cm、地図4：56×76cm

作者 地図1・2：不明、地図3：FORTIFICATIONS、地図4：A.LECONTE,Editeur

地図1



【解説】

フランスの首都パリの起源は古く、紀元前までさかのぼる。先住民であるパリシ族の名称をとってパリと改称されたのは212年のことだとされている。周囲を城壁で囲んだ要塞都市として発展していった。地図はルイ14世統治時代後期のもので、ルーブル宮殿の形状が現在とはかなり異なることが見て取れる。

★1 バスティーユ

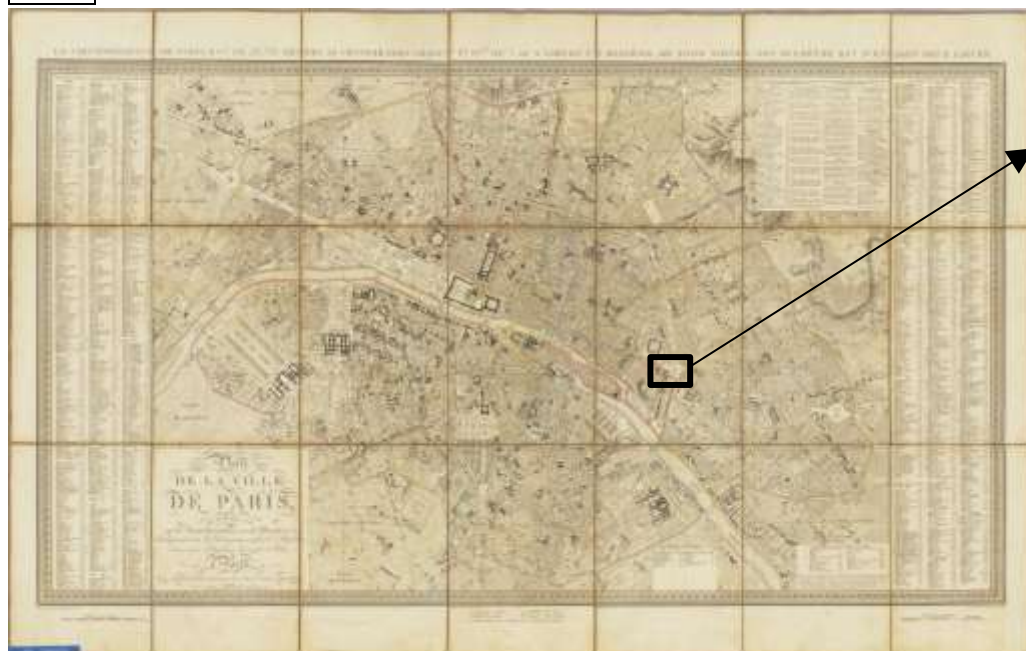
フランス革命の発端となった襲撃事件で知られる。Ville（町）と農村の境に位置しており、古い城壁を取り払って建設されたグラン・ブルヴァールの途中に位置することが確認できる。もとは要塞として築かれた歴史を推測することもできる。

★2

★2 地区ごとの建築物名

Cité と Université、Ville の3つの地域ごとに建物名が書かれている。Cité には Nôtre Dame の記述もみられる。

地図2



★3

バスティーユ広場

ナポレオンが建設を進めた「バスティーユの象（Fontaine de l'Elephant = 象の泉）」の記述がある。



【解説】 ナポレオン百日天下後、7月革命直前のパリの地図である。左岸にはシャン・ド・マルスやアンヴァリッド、リュクサンブール宮も描かれている。バスティーユの位置から、およそ100年の間に市街地がかなり拡大したことが読み取れる。凱旋門も描かれているが、この時点では建設途中であったと思われる。市街地は現在とは異なり、12に区分されている。

地図3

【解説】

フランス第三共和政の最盛期に発行された地図である。パリの行政区分が現在と同じ20区に再編されたのは1859年のことであるとされているが、この地図ではまだ12区のみで描かれている。市街地を囲む城壁の外側にティエールの城壁が築かれており、内側が現在のパリ市街の範囲と一致する。



★4 Opéra

パレ・ガルニエ（オペラ座）およびオペラ大通りの完成は1875年といわれているが、この地図にはまだ描かれていない。現在のパレ・ガルニエの位置より少し東にOpéraと書かれた簡素な建物が描かれている



地図4

★5 放射状の大通り

19世紀にオスマンの計画により、エトワール広場を中心として、12本もの放射状のブルヴァール（大通り）が整備された。パリの代表的な景観の一つとなっている。

【解説】

作成年は不明となっているが、1889年に竣工したエッフェル塔が描かれていること、1937年には取り壊されたトロカデロ宮が描かれていること、南から南東にかけてのティエールの城壁が取り壊されていることから、1920年前後の地図ではないかと推測される。



【利用の例】

- 都市の発展と都市改造・近代化について知ることができ、授業の導入・展開に利用できる。
 - 城壁を作ったり取り壊したりを繰り返して環状に拡大・発展した都市の様子がわかる。
 - 入り組んだ路地が減っていく様子から衛生面・景観改善などといった観点から計画的に都市改造が行われた歴史を知ることができる。